

夢子が裏アカを作ったのはつい数ヶ月前のことだった。
ただ願望を吐き出すだけの、誰に見せようともしていない独り言用のアカウント。

夢子の願望。

それは「知らない人に触られたい、自らの体を使ってまるで性欲を処理するように蹂躪されたい」という、とても表では言えないものだった。

男性経験が豊富なほうではないし、自分がめちゃくちゃになるセックスなんて体験したことがない。普通のセックスしか知らない。

けれどその願望は仕事のストレスに比例して大きくなっていった。

工作中、買い物中、寝る前、ことあるごとにそれを思ってはムラムラと体を熱くしてしまうのだ。

先週はストレス解消にと行ったひとりカラオケできわどい写真を撮りSNSにあげてしまったほどだ。

——しかし、そのおかげで夢子の生活に変化が訪れた。

普段は文字しか投稿しないそのアカウントに写真を投稿すると、一通のDMが来た。

『このカラオケって〇〇〇の〇〇店だよね』

それだけじゃない、夢子が返事をする前に追撃として送られてきたDMで送り主は写真に写り込んでいたソファのキズから部屋まで当ててしまったのだ。

ひやりと一瞬怖くなった夢子だったが更に立て続けに来た追撃DMの内容で心臓が大きく鳴った。

『週末、23時頃にこの部屋で待ってて』

結局、夢子は何も返信しなかった。

けれど夢子は今日あのカラオケのあの部屋にいる。

一番奥、角を曲がらなければドアについている小さな窓から部屋の中を覗くことすらできない部屋。

部屋の明かりを暗くしてその小窓を見つめていた。

しばらくしてその小窓に影が落ちる。

そしてゆっくりと重いドアが開いた。

「…お、本当にいた」

夢子の体温が一気に上がった気がした。

入ってきたのは中年の男性。

期待しすぎないよう悪い想像もしていたが夢子が思っていたより、いや、想像以上に清潔感のある男性でその点に関しては拍子抜けするほどだ。

男はソファに座る夢子にゆっくりと近付き隣に腰を下ろした。

(き、緊張する、本当に来ちゃった)

固まる夢子の肩を抱く男。

夢子の体にぴったりと体を密着させ、鼻先を夢子の髪に埋めると大きく息を吸った。

「君が夢子ちゃん？」

「は、はい」

「知らない人に無理やりされたいんだっけ？嫌がっても何度もおまんこ使われて有無を言わさずイカされて、めちゃくちゃにされたい、…んだよね？」

「……、」

「もうそんなムラついた顔しちゃって…」

そこで男は肩に回した手で夢子の顔を自らのほうへ向けさせると夢子にキスをした。

押し付けられた唇は少し開くと夢子の下唇を吸い、舐め、ちゅぽ♡と音を立てると、唇の隙間に舌を差し込んでくる。

「……ん、…、は」

緊張でなのか興奮でなのか、心臓が音はどんどん大きくなっていった。

男の舌が舌に絡まり撫でるように蠢いて、その間に大きな手は夢子の薄着の体を撫でてスカートの中に入ってきた。

「短いスカート…触られるために履いてきてくれたの？えらいねえ」

(…触られる、知らないおじさんに触られる)

夢子の舌を甘やかすようにその舌を絡ませ、男の手は夢子の足の間に挟み込まれた。

手は夢子のそこをぴったりと覆うように被され、次に曲げられた中指の関節が、

こす…♡

布の上から夢子のクリトリスを擦る♡

「うあ」

ビク、夢子の体が小さく跳ねて、男は更に唇を深く重ねてきた♡

ちゅ♡ちゅぷ♡

唾液の音が鳴り、

こす…♡こす…♡

硬い関節が布越しのクリトリスを擦る♡

ちゅ、ちゅぷ♡ちゅ、ちゅ、ちゅ♡♡

こす、こす……、こす、こす、こす♡♡

「あ、あっ、あ♡あ♡ん、」

クリトリスがじんわりと熱を持っていく♡

血がそこへ集中していくような感覚がして♡
じんじんと痛い♡勃起していているのが分かる♡

ちゅ♡ちゅ、ちゅう♡ちゅ♡
こす♡こす♡こすこすこす♡
「んあ、あ♡…、♡ん♡」

知らない男に肩を抱かれ密着され、されるがままに舌
を差し出し、足は勝手に大きく開いて、その中心のクリ
トリスを布ごと擦られる♡

(き、きもち～……♡♡♡♡♡キスもクリ触られるのも
きもちいい……♡♡♡)

目がとろんと潤んで眉が下がる♡♡
夢子は男が与えてくれる感覚に夢中になっていた♡

……そのとき、ドアがゆっくりと開いて外の光が差し
込んできた♡

「……！？」

「いいからいいから、夢子ちゃんはキスしてようね」

驚いてそちらを向こうとしたけれど男に肩を抱き込ま
れ叶わない♡

(え、人増えた？この人の知ってる人？)

「へえ、この子かあ、大人しそうなものになかなか大胆だなあ♡」

入ってきた男が嬉しそうにそう言うと、キスしていた男が吸い上げていた夢子の舌を解放した♡

「裏アカであんな性癖晒してた割に大人しい子だよ」

「そのほうがギャップがあっていいじゃないか」

(うそ、二人になっちゃった…)

夢子が何か言う隙もなくその男は最初に入っていた男の反対側を陣取り、夢子の体をゆっくりと撫でていく♡

首筋、うなじ、腕、胸、そして腰まで来ると夢子の服の中に侵入してきた♡

相変わらず舌をあやされクリトリスを擦られている体はそれだけでも反応してしまう♡♡

大きな男の手は背中に回ると簡単にブラジャーのホックを外してしまった♡

(今度は胸触られちゃう♡キスされてクリされて、……乳首もされちゃうんだ♡♡)

「夢子ちゃんの体、柔らかくて触り心地いいねえ♡おっぱいはどうかな？」

「……は、あ♡あ、ん、」

胸を包まれただけでじわっ♡と上半身に気持ちいい感覚が広がった♡

男は感触を楽しむようにやわやわと揉むと、爪で下から上へ乳首を掬いあげるように、

さり…♡

と、撫でた♡

「ん` あ♡♡」

ぴりっ♡♡

硬い爪にそうされて背中に微弱な電流のような快感が走る♡

「よかった、おっぱいも気持ちいいねえ♡」

さり♡

「あ♡」

さり♡

「んっ♡」

さり♡

「う、っ♡」

さり、さり、さり、さり♡♡♡

「あ、あ、っ、あ`♡♡♡」

立て続けに爪を当てられたらキスを受け止める余裕もない♡♡

夢子はくったりと肩に回されていた男の腕に頭を預けたれど、男はその夢子の舌を追いかけて尚も吸い続けた♡

「気持ちいいんだ、あっという間に乳首勃っちゃったよ♡余計に爪に引っかかっちゃう♡」

「ふ♡う、っ♡ん♡あ、は♡っ♡あ、んあっ♡」

「かわいいねえ、両方してあげるよ♡」

「あ、…………っっ！、ん”、む” ♡♡♡う” ♡♡」

背中から回された片手も乳首に触れ、そちらも爪の先で擦られた♡

ちゅぷ♡♡ちゅ、むちゅ♡ちゅう…♡♡

こす♡♡こす♡♡こす♡♡こす♡♡こす、こす、こす、こす♡♡

さりさりさり♡♡さりさりさりさり♡♡

舌を吸われ♡♡クリトリスを擦られ♡♡乳首を刺激され♡♡

夢子はすっかり夢中になってしまっていた♡

自ら足を開き目を閉じてその感覚に集中する♡

「えっちな顔してる♡」

「…………んあ、あ、っ♡だ、って…………」

「このままイきたい？べろよしよし♡されて、乳首されて、クリこすこす♡されて、イきたい？」

夢子の腰がもじもじと揺れる♡

男たちはにやけた顔で夢子を見下ろしひたすらに責め続けた♡

「イき、たいです……♡♡」

「じゃあクリたくさんしてあげないとね♡」

かりっ♡

クリトリスを擦っていた男が爪を立てた♡

布が摩擦される熱さと爪の硬さがクリトリスを追い詰める♡♡

かりかりかりかりかりかりかりっ♡♡♡

「んは、あゝ♡♡あッ♡♡あ……ッ”♡♡♡」

「足カクカクしてきたねえ」

「えっちな匂いも…♡」

(い、イっちゃう♡♡知らないおじさんたちにキスされて乳首されてクリされてイっちゃう♡♡♡これ気持ちいい♡♡♡気持ちいい♡♡♡気持ちいい♡♡♡)

開いた足と下腹部にぎゅっ♡♡と力が入った♡♡♡

「……ッ、あ、あ、い、く…っっ♡♡♡」

夢子の口からそう漏れた瞬間♡♡♡

ぢゅっっ♡♡ぢゅ、る♡♡♡ぢゅぷぷッッ♡♡♡

「…ッ♡♡……ん”、う♡♡……ッ、お♡♡♡」

舌に激しく吸いつかれ♡♡

ぎゅ……っ♡♡♡ぎゅ、ぎゅっ♡♡ぎゅ、ぎゅ、ぎゅ

♡♡♡

「……ッお♡♡♡あ♡♡♡……、ら、め♡♡♡」

乳首は軽く潰すように挟まれ♡♡♡

かりかりかりかりかりかりかりっ♡♡♡

「うあ”♡♡♡ッッ、お♡♡♡お♡♡♡いく、イク…！

♡♡♡」

クリトリスは高速で引っかかる♡♡♡

ぢゅぷッ♡♡ぢゅるる、ぢゅぶ、ぢゅうううっ♡♡

♡

ぎゅっ♡♡ぎゅっ♡♡ぎゅっ♡♡ぎゅっ♡♡ぎゅっ♡

♡

かりかりかりかりかりかりかりかりっ♡♡♡

「いく……！♡♡♡イ、……………ッッッお”！♡♡♡

♡♡♡」

ビクンッ！♡♡

ビクっ、ビクっ♡♡♡♡♡

夢子の体がソファの上で絶頂に跳ねるのと、
またドアが開いて今度は二人、男が部屋に入ってきた
のは同時だった♡♡

(う、うそ…、また増えた)

「お、早速やってますねえ♡」

「ちょっと遅れましたか」

二人と同じくらいの年代の男だ♡

「大丈夫ですよ、まだ始まったばかりですから」

そう言って夢子の隣にいた男は、絶頂後のふわふわした
状態で動けないでいる夢子を抱え上げた♡

体が浮いたかと思えばすぐに部屋の中心にあるテーブル
に寝かされる♡♡

「夢子ちゃんはめちゃくちゃにされたいんだもんね」

そして服が脱がされていく♡

始めは上半身から服が抜き取られ、それから下着もブラジャーもテーブルを囲んだ男たちに取りられてしまった♡

裸になってしまった夢子を、薄暗い部屋で男たちが見下ろしている♡♡

(またされちゃう…、男の人四人なんて絶対敵わない、逃げられない、無防備にテーブルに転がされて……、……♡♡♡♡ああ、やっぱり私って変態だったんだ、こんな状況に興奮してる♡♡♡♡♡♡)

男の一人が夢子の足を広げた♡♡

その手は膝から太ももを上がってきて濡れた夢子のおまんこに辿り着く♡

「しっかり濡れてる♡誘われてるみたいだな♡」

男はそのまま体を屈めて指でその肉を広げると♡

れ、…ろお♡♡

ねっとりと舐め上げた♡♡

「……ッ♡♡♡」

(気持ちよくされちゃう、またイかされちゃう……♡♡)

♡♡♡♡)

…れろ、れ、れろお♡♡

ねっとりともったいぶって舐め上げた舌は、今度は皮ごとクリトリスを覆った♡

湿った温かい舌からじんわりと熱が広がり夢子は悶える♡♡

…ぬちゅ♡♡ぬりゅ♡ぬち♡♡ぬち♡♡

「…ッあ♡♡あ、ッ♡♡う♡♡♡」

柔らかかった舌が硬くなってクリトリスを刺激している♡♡

「ほら、こっちもしてあげるからね」

「あ……、♡♡」

それぞれ別の男が乳首に手を伸ばしてきた♡

きゅ…っ♡こり、こりこりこりこりこり…♡♡♡

勃起したままのそれを根元から挟まれこねられて♡もう片方は♡♡

しこ♡♡しこ♡♡しこ♡♡しこ♡♡しこ♡♡しこ♡♡

同じく挟まれると上下に指が滑る♡♡

「……あッ♡♡♡あ”♡♡あ♡♡っ”♡♡♡」

「舌も好きなんだろ？♡♡おじさんとはキスしてようか♡」

「あ…、ん”、む♡♡♡……ッ♡♡♡」

声が漏れる口を喉をそらしたまま塞がれる♡♡

それから他の誰かがその首元に唇を寄せ薄い皮を引っ張るように吸った♡♡

テーブルの上、手も足も投げ出した夢子に男たちが群がっている♡♡

ぬりゅ♡♡ぬち♡♡ぬち♡♡くちゅ、ぐちゅ♡♡ぬちゅぬちゅ、ぐちゅ♡♡♡

蠢く舌にクリトリスを刺激され♡♡

こりこりこり♡♡こりこり、こりこりこりこり♡♡♡
しこっ♡♡しこしこしこしこっ♡♡しこしこしこしこ
しこ…♡♡♡

乳首は勃起を倒すようにこねられ、乾いた指で上下にしごかれて♡♡

む、ちゅ♡♡ちゅる♡♡ちゅく、ちゅく♡♡♡ちゅむ♡♡

舌は窄めた唇に咥えられ、喉元には強く吸いつかれる♡♡♡

(すごい♡♡イッたばかりなのに気持ちよくなってる♡♡
♡♡体のあちこちから気持ちいいの来てる…♡♡♡♡♡)
♡)

ぬちゅ♡♡ぐちゅ、ぐちゅ♡♡ぬちぬち♡♡くちゅ♡
♡

こりこりこりこりこりこり♡♡♡こりこりこりこりこり♡♡♡

しこしこしこっ♡♡♡しこしこしこしこしこしこしこしこしこしこっ♡♡♡

ちゅ♡♡ちゅむ、ちゅく♡♡♡ちゅ、ちゅ、ちゅ、♡
♡♡ちゅううう……♡♡♡♡♡

(あ〜〜〜……♡♡♡ずっとされてるとイっちゃう、
また、……♡♡♡♡)

「ん` ……ッ、♡うむ♡♡♡ん`、う、っ♡♡♡」

「あれ、足ピンしてる♡」

「手もテーブルの端しっかり握っちゃってるわ、イきそうなんじゃない？」

「首筋真っ赤だし」

「あ♡お腹ピクピクしてきた♡」

夢子の絶頂を察した男たちは責め立てるように一定のリズムで夢子を刺激し始めた♡♡♡

ぬちゅっ♡♡ぬちゅっ♡♡ぬちゅっ♡♡ぬちゅっ♡♡
ぬちゅっ♡♡ぬちゅっ♡♡

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこりっ♡♡♡
しこしこしこしこしこしこしこしこしこっ♡♡♡
ちゅ、ちゅ♡♡♡ちゅむ♡♡♡ちゅ、ちゅ、ちゅうう
うう…………♡♡♡♡♡

「…………ツ、ん” ふ♡♡♡う” ♡♡あ”、…………♡♡♡」

快感が膨れ上がって腰が浮く♡♡♡
腰が浮いて、ぶるぶると震えて♡♡
夢子はぎゅ、っと目を瞑る♡♡♡

「…………う”、あ♡♡♡いくっ、…………、イク、…………～～
～～～ツ” ツ” イく！！！！♡♡♡♡♡ん” ん” ん”
…………ツツツ！！！！♡♡♡♡♡」

腰を突き出して夢子はまた絶頂した♡♡
男たちはまだ離さない♡

「中はどうかな♡」

クリトリスを責めていた男はぐずぐずに濡れた夢子の
おまんこへ指を挿入してきた♡♡

一気に二本、濡れた穴を広げるように探るとそのまま侵入してくる♡♡

「うあ…………ッ” ！？♡♡♡♡♡」

急に与えられたナカへの刺激に夢子は飛び上がった♡

「こらこら、逃げないで」

「乳首も一緒にしてあげてあげるからね♡」

その体をテーブルに押さえつけられる♡♡

ぢゅく♡♡

指は一度軽く引くと、

ぐぢゅ…！♡♡♡

奥へ押し込まれ♡♡

「これだけ濡れてれば遠慮なく動かせるね♡」

クリトリスに唇を当てたままの男がそう言うと、

……ぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくぢゅく！！♡♡♡♡♡

「……ツツツお” ！！♡♡♡♡♡♡」

おまんこごと揺らすように指をピストンし始めた♡♡
♡

ぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくッッ！！♡♡♡♡♡
「お”、ッッ♡♡、お、ッ”、ま、って、……ッ！♡♡
♡」

ぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくッッ！！♡♡♡♡♡
「んお”ッ♡♡♡お”、…！♡♡♡い、ったばっか、な
のにい…！！♡♡♡♡♡」

ぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくッッ！！♡♡♡♡♡
「お”ッッ、お”…ん”！♡♡♡っほ、おお”ッ！♡♡
♡お”ッ、おおおッッ！！♡♡♡♡♡」

「それがいいんだろ？イったばかりの敏感まんこをめち
やくちゃにするのがさ♡」

ぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくッッ！
！♡♡♡♡♡

「お”、あ”…！♡♡♡あ”あああッッ！！♡♡♡♡お
っ”♡♡♡おおお”お”♡♡♡お”オ”ッッ”！！♡
♡♡♡♡」

「すっげー気持ちよさそ…♡ぷりぷりのクリも吸ってや
ろう♡」

「乳首ももう指じゃ物足らないか？おじさんの分厚い舌
でべろべろしてあげるからな♡」

「ほら、舌はちゃんとキスしてなさい♡」

「……んお” ツ、…んや、だめ、吸わない、で…、いま
吸わ、…………ツ” ツ” ツ” ほお” ♡♡♡♡♡♡」

(なにこれ……♡♡♡♡イったおまんこ刺激されるの、
こんなすごいのか…？♡♡♡♡♡)

指でおまんこごと揺らされ振動するクリトリスを、勃
起しきった敏感な乳首を、喘ぐままに突き出す舌を、

ぢゅ……ぶ♡♡♡♡♡

ぢゅぶっ、ぢゅぶぶぶっ♡♡♡♡♡

ぢゅぶぶ、ぢゅぶっ♡♡♡ぢゅるるるるっ♡♡♡

ぢゅるっ、ぢゅるっ、ぢゅるっ♡♡♡♡♡

ぶぢゅツツ♡♡♡♡♡ぢゅろろろろろろろろろ……♡

♡♡♡♡

「お” ツ” ツ” オ” おおお” ！♡♡♡♡♡お” お” お”
お” お” ツツツツ！！♡♡♡♡♡♡♡」

思いつきり吸われ♡♡

全身が食べられてしまうんじゃないかと錯覚するほど
快感でいっぱいになった♡♡

反射的に暴れてしまってテーブルがガタガタと音を立てる♡♡♡

けれど暴れたところでこの快感から逃げられそうには
ない、いくまで終わらないのだ♡♡

いっても終わるかは分からないけれど♡♡♡

「…………、え、なにやってるんですか？」

そのときまたドアが開いた♡

中を覗き込んだのは男たちよりかなり若い青年たち♡
数は三人ほどだ♡

テーブルの上、男たちに覆い被され悶える夢子を見て
ぎょっとした顔をしている♡

「お”、ツ、おお” ツツ！♡♡♡♡お” っ♡♡♡お” っ
ツ♡♡♡」

「…っ、え？ええ？」

「入ってきていいからお兄ちゃんたち早くドア閉めて」

「ツツほおおお” っ！！♡♡♡♡♡や” あ” ああツツ、
いくっ！！♡♡またいく！イ” っちゃう、ツ” お” おお
……！！♡♡♡♡♡」

「これ、なにして……」

「ちゃんと同意のやつだから」

ぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくぢゅくぢゅく

！！！！♡♡♡♡♡

ぶぢゅるるるるるッッ♡♡♡♡♡

ぢゅろろろろろろろろろ……！！！！♡♡♡♡♡

「イ、……ッ、く、…………お、オ、ッふお、お、
お、オ、！！♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

更に人が増えた部屋は、淫靡な甘くむせ返るような熱
気が充満していた♡

立て続けにイかされた夢子は浅く早い呼吸をしながら
だらりと手足を投げ出している♡

(…………あ、れ？また人増えて、)

「夢子ちゃん、こっからが本番だよ♡夢子ちゃんのス
ケベまんこ使わせてもらうからね♡」

「あ、……」

夢子が新たに増えた彼らを見るより先に、

ず、ん……ッ♡♡♡♡♡

「…っ、ふオ♡♡♡」

男は夢子の腰を掴むと、滾るように膨張した赤黒いちんぽを突き入れた♡♡

連続で絶頂しドクドクと脈打つナカにそれを埋め、男は腰を動かし始める♡♡♡

ずん、ずんっ♡♡♡

「お”、っ♡♡♡」

ずんっ♡♡♡ずんっ♡♡♡

「…ん”、…ッ” お”♡♡♡」

ずんっ♡♡♡ずんっ♡♡♡ずんっ♡♡♡

「お”♡♡♡オ”っ♡♡♡っ”♡♡♡」

ずちゅっ♡♡♡ずちゅっ♡♡♡ずちゅっ♡♡♡ずちゅっ♡♡♡

「んおお”ッ♡♡♡お…ッ！♡♡♡ほ、ッ”お！♡♡♡♡」

ゆっくりと早くなるピストン♡♡

男は夢子の両腕を握り押し出されないよう固定している♡

「いいねえ、夢子ちゃんのおまんこ♡ほぐれててちんぽ包んでくれて…♡早くみんなにも使ってもらおうね♡♡♡」

（そうだよね、私がイっちゃってもちんぽも挿れずに終

わるわけ……、…でもじゃあ、ここにいる人たちみんな
…？みんなにちんぽ挿れられるまで終わらない？)

どちゅッッ！！♡♡♡♡♡

「あゝ、……ッ、おゝ♡♡♡♡♡」

男が更に深くに突き入れた♡♡

「あゝ、奥いい、狭くって……♡♡ちんぽがうずうずして腰振らずにはいられないよ♡♡」

……どちゅッッ！♡♡♡どちゅッッ！♡♡♡どちゅッッ！♡♡♡

「ッひ、おゝッ、お♡♡♡……んゝ〜〜ッゝ！♡♡♡」

夢子の思考を止めるように力強く突いてくるちんぽ♡♡

夢子は声を漏らしながらまた喉をそらせる♡♡

「ピストンで揺れるおっぱい、しゃぶってあげる♡♡」

「お、じゃあ俺もこっちの乳首を…♡♡♡」

ぷ、ぢゅるっ♡♡♡

ぢゅる、ぢゅろ、ぢゅろろっ♡♡♡

「……ッ、んゝアっ♡♡♡あッ♡♡♡ッ、んゝ♡♡んおゝっ♡♡♡♡」

揺れる乳首を口に含まれ唾液まみれにするように音を立ててしゃぶられる♡♡

どちゅッッ！！♡♡♡どちゅッッ！！♡♡♡どちゅッ
ッ！！♡♡♡どちゅッッ！！♡♡♡どちゅッッ！！♡♡
♡

ぢゅるっ♡♡ぢゅろろろっ♡♡♡ぢゅろろろろろッッ
ッ♡♡♡

れるれるれるれるるっ♡♡♡♡れるるるるるっ♡♡
♡♡♡

「ッお♡♡♡お♡♡♡ッッほお♡♡♡んおおおッッ！
♡♡♡♡♡」

「はは、本当にいい声出すなあ♡みんな夢子ちゃんに釘付けだよ♡♡」

どちゅッッ！！♡♡♡どちゅッッ！！♡♡♡どちゅッ
ッ！！♡♡♡どちゅッッ！！♡♡♡どちゅッッ！！♡♡
♡どちゅッッ！！♡♡♡

ぢゅろろろろっ♡♡♡♡ぢゅろろろろッッッ♡♡♡♡
ぢゅろろろろろっ♡♡♡♡♡

れるるるるる、れられられられら……♡♡♡♡♡べ
るるるるるっ！♡♡♡♡♡

「お` あアッ！♡♡♡♡あ、ア` ツツ♡♡♡……ん` お
ツ、お、お…ツ` ！！♡♡♡♡」

(おなかがきゅうっ♡ってして気持ちよくなってる♡♡
♡このままピストンされてたらイク、きもちいいのでい
っぱいになってイク、…………♡♡♡♡♡)

「クリもパンパンだな♡♡」

ピストンに集中してしまっていた夢子の、赤く腫れた
粒へ横から別の男が爪を立てた♡♡

ちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅく
……！！♡♡♡♡♡♡♡

そしてくすぐるように指が高速に上下に動く♡♡

「オッ” お…、おおツツ！！♡♡♡♡♡」

「まんこ締まる……♡♡♡♡♡」

「く、り、……ツ、お”、お……！！♡♡♡♡♡ら、め
”、らめええ” えええ！！♡♡♡♡♡」

男たちに見下ろされながら、テーブルの上で夢子の体
がガクガクと震え♡♡♡

「イ” く……！！♡♡♡♡♡こ、…え、イク、も、い”
く” う……！！♡♡♡♡♡♡♡」

「いくよ、おまんこに小刻みピストン♡♡俺も出すから

ね♡♡♡」

どちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅ
どちゅどちゅッッッ！！♡♡♡♡♡♡♡♡

男は指が食い込むほどの力で夢子の腕を握り、宣言通
りにラストスパートの小刻みピストン…♡♡

「お”、…………お”、……ほ、ッ、ふお、お”、……
…………い、ッ”、く”♡♡♡♡♡♡い”くう”ううッ
ッ”ッ”！！！！♡♡♡♡♡♡♡♡」

夢子は呻き声のような声を絞り出してまた絶頂した♡
♡

ぬ”ぼ……♡♡♡♡

男のちんぽが出て行って、脱力した夢子がテーブルに
くたばっている♡

体に力が入らない♡♡

頭がぼーとして、目の焦点も合わなくて、息を吸っ
て吐くのだけで精一杯だった♡♡

(やばい……、連続でイカされるのってこんな感じなんだ)

「夢子ちゃん今度はこっちおいで♡」

男たちに体を抱き起こされ♡

ソファに座った男の膝に対面で乗せられた♡

(おまんこ疲れちゃった、もう気持ちいいのなんて、)

ぐちゅ……、ぐちゅ♡♡♡

「…ッふお、お♡♡♡♡♡」

反り立ったちんぽが濡れたおまんこを開いていく♡♡

絶頂に脱力したそこが無理やり開かされ、ちんぽを飲み込み♡♡

(もう無理なのに……、なんでまた、きもちよく、…
……♡♡♡♡♡)

夢子の体の奥のスイッチを押すようだった♡♡♡

「あー……、気持ちいいよ夢子ちゃん♡」

「……お、……ん、ん♡♡」

「キスしよう」

「………ん、うむ♡♡」

夢子は素直にそれを受け入れた♡♡

顔を傾け男の唇を受け止めると誘われるがままに舌を絡める♡♡

そして男はすぐに下から夢子を突き上げ始めた♡♡

ばすっ！♡♡ばすっ！♡♡ばすっ！♡♡

「ん`ッ♡♡う`、ん`う！♡♡♡…ッ♡♡♡」

体の奥の奥までちんぽで突かれる♡♡

ばすっ！♡♡ばすっ！♡♡ばすっ！♡♡

「ッっ、お`♡♡…お、ん`♡♡♡ん`む`！♡♡♡」

男のちんぽが最奥を突いて体が跳ねると♡♡

こす♡♡ずり♡♡ずり♡♡こす、こす♡♡♡

「んッ`♡♡♡んあ♡♡♡……ッう`♡♡♡」

男の体に押し付けられた乳首が男の体で擦れる♡♡

それが♡♡

たまらなくて♡♡♡

(……やばい、どんどん刺激が強い、欲しくなってる
♡♡♡♡)

ばすっ！♡♡ばすっ！♡♡ばすっ！♡♡ばすっ！♡♡
ずり♡♡こりっ♡♡こす、こす、こす、こすっ♡♡♡
「んっお”、お”♡♡♡ふ、……ッ、お”♡う…ッ！♡
♡♡」

「あれ♡夢子ちゃん腰振っちゃってる？」
ばすっ！♡♡ばすっ！♡♡ばすっ！♡♡ばすっ！♡♡
ばすっ！♡♡
ずりっ♡♡ずりっ♡♡ずりっ♡♡ずりっ♡♡ずりっ♡
♡

「お”っ、♡♡お♡♡♡んっお”♡♡♡おほ、っ♡♡♡
お”ッ♡♡」

「おちんぼ奥まで当てて、自分で乳首ズリして感じてる
の？♡」

もうキスする余裕なんてない♡♡
夢子は男の首に腕を回して必死に体を上下させていた
♡♡♡

体の奥にはちんぼで快感を送られ、その快感が上下に
倒れる乳首で増幅する♡

「えっちなこと大好きな変態さんで可愛いねえ♡ひとりだけ楽しむなんてもったいない、俺も触らせてもらおう♡♡」

ばすっ！♡♡ばすっ！♡♡ばすっ！♡♡ばすっ！♡♡ばすっ！♡♡

ずりっ♡♡ずりっ♡♡ずりっ♡♡ずりっ♡♡ずりっ♡♡ずりっ♡♡

「ンォっ！♡♡♡お”、おッ♡♡♡お”ッ！♡♡んく、う”ッ♡♡♡」

夢中になってちんぽの上で体を跳ねさせる夢子♡♡
その後ろから男が抱きしめるように両腕を回し♡♡
左手でクリトリスの皮を下ろすと、右手の二本の指でその小さな粒を挟んだ♡♡♡

「……あ、あ”♡♡♡♡♡」

敏感に育ってしまったそこを触られただけでも体がビクつくのに、これから与えられる快感への予感に体が一気に熱くなる♡♡♡

その指は、

ちゅむっ♡♡♡

クリトリスを叩くように強く挟み、すぐに解放して♡♡♡

ちゅむちゅむちゅむちゅむちゅむちゅむちゅむちゅむっ♡
♡♡♡

それを高速で繰り返した♡♡♡♡

「ひ、お”！！♡♡♡♡♡お、ッほ、お、お”♡♡……
ッ、な、なにこれえ♡♡♡♡」

ちゅむちゅむちゅむちゅむちゅむちゅむちゅむちゅむっ♡
♡♡♡

「クリ溶解、る……！♡♡やば、………やばやば、…
……ッ”ッ”♡♡♡♡♡おッ”、おおおッッ！♡♡♡♡
♡」

ばちゅッッ！！♡♡♡ばちゅッッ！！♡♡♡ばちゅッ
ッ！！♡♡♡ばちゅッッ！！♡♡♡ばちゅッッ！！♡♡
♡

「あ”ッ、あッ♡♡♡んおおおおッッ！♡♡♡♡♡お”
オ”、ッおおっ！♡♡♡」

クリトリスへの刺激で締まったおまんこに、挿入して
いる男は夢子の動きに合わせるように腰を突き上げる♡
♡

■続きは製品版にて♡